

科目名	空間計画論	単位数	2	授業形態	講義
科目区分	環境土木工学：専門科目 建築学：専門基礎科目	開講時期	2年後期 火曜2限	必修・選択	環境土木工学：必修 建築学：選択
対象履修プログラム	環境土木工学，建築学	担当教員	加藤 博和		
キーワード	都市計画，都市発展段階，土地システム，持続可能な都市経営				
授業の概要	国土および都市の発展段階を意識した空間計画の理論を理解するとともに，欧米および日本における実際の空間計画制度を学習し，それらを相互比較することによって，21世紀の日本および発展途上諸国に求められる空間計画のあり方について探求する．				
授業の目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 国土・都市を対象とした空間計画の全体構成を理解し説明することができる．</li> <li>2. 欧米と日本の空間計画制度の違いと，それに伴う国土・都市形成の違いについて理解し説明することができる．</li> <li>3. 日本および発展途上諸国における今後の空間計画制度のあり方と具体的改善点について理解し説明することができる．</li> </ol>				
基礎となる科目	社会資本計画学，人間活動と環境				
関連して履修が望ましい科目	交通論，都市・国土計画，社会資本・空間計画学演習 (本科目修得後に履修することが望ましい)				
授業内容 (日程は予定、変更可能性があるので注意。変更の場合は授業やNUCTで連絡する)	第1週 (10/6) オリエンテーション				
	第2週 (10/13) 概説 ーなぜ日本の都市・国土は雑然としているのか？ー				
	第3週 (10/20) 国・都市の成長・衰退・再生メカニズムと空間計画				
	第4週 (10/27) 少子高齢化・人口減少と空間計画との関係				
	第5週 (11/10) 空間計画における土地制度の重要性				
	第6週 (11/17) 土地の市場・税制・情報・利用規制に関する国際比較				
	第7週 (11/24) 交通・施設・土地利用計画が空間・環境に及ぼす影響				
	第8週 (12/1) 地域の持続性・脆弱性と空間計画				
	第9週 (12/8) 災害に強いレジリエントな空間計画				
	第10週 (12/15) 空間計画評価の方法論<短期影響>				
	第11週 (12/22) 空間計画評価の方法論<長期影響>				
	第12週 (1/12) 日本の空間計画の体系と問題点・改善策				
	第13週 (1/19) 発展途上国における空間計画制度の現状と課題				
	第14週 (1/26) 持続可能な都市・地域経営のための空間計画のあり方 国土・都市計画技術者に求められる倫理				
		試験 (2/16を予定)			
教科書・参考書	参考書：林良嗣・土井健司・加藤博和編著：都市のクオリティ・ストックー土地利用・緑地・交通の統合戦略ー，鹿島出版会，2009.9 林良嗣・鈴木康弘編著：レジリエンスと地域創生 伝統知とビッグデータから探る国土デザイン，明石書店，2015.3				
授業の形式	ES033で対面講義を行いつつ，オンライン（YouTube）でも配信．いずれでも受講可能．主に板書による説明を行い，資料配布やパワーポイント投影も行う場合がある．				
評価方法	期末試験 70%，レポート 30%とする．60%以上の成績を合格とする．				
履修上の注意	毎回の授業前に前回の復習をしておくこと．専用のノート（A4）を用意し，講義においては板書のみならず話した内容のうち重要と思われる点をノートに書き留めること．毎回，終了時には簡単なコメントを提出してもらう．数回のレポート課題を課すので，必ず提出すること．提出はすべてNUCTを使用する．				
質問への対応方法	内容に関して質問がある場合には，なるべく授業中に質問して解決すること．授業時間外では特に定まったオフィスアワーは設けないが，NUCTのメッセージ機能にて質問およびアポイントメントを受け付ける． 内線：5104；E-mail：kato@genv.nagoya-u.ac.jp				
メッセージ	日本の空間計画制度は多くの課題を抱えており，その結果，災害に強く風格ある国土・都市形成が阻害されている．それに対する問題意識と自分なりの改善策を持つことは，将来土木・建築分野に従事する技術者にとって必須の知識である．担当教員もその使命に燃えて授業を担当するので，受講者にもぜひこのような自覚を持って受講してほしい．				